

プロジェクトの進捗を議論する合同調整委員会開催！
(2020年11月25日)

2019年4月に開始してから1年半ほど、今年は新型コロナウイルスによる状況の大きな変化をもちながらも、プロジェクト活動は続いてきました。そして11月25日、プロジェクト進捗を関係者全員で共有し、今後の計画について話し合う第1回合同調整委員会（JCC：Joint Coordination Committee）を実施しました。本来第1回は2020年2月に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でなかなか実施に至らず、今回ようやく開催の運びとなりました。



新型コロナウイルスの状況が落ち着いているベトナム側では、NHTDに関係者が一堂に会することができました。今回も日本からの参加者の渡航は叶いませんでしたが、オンライン経由で多くの皆様の参加を頂きました。

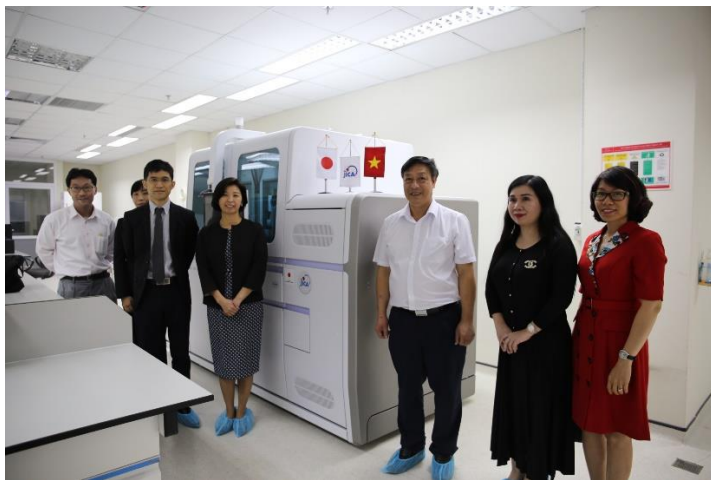
プロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）、ハノイ医科大学、保健省などのベトナム側参加者、そして日本側からは JICA 本部・ベトナム事務所はもちろん、プロジェクト実施機関でもある国立国際医療研究センター（NCGM）エイズ治療・研究開発センター（ACC）や熊本大学、そして SATREPS プロジェクトの共同実施機関でもある日本医療研究開発機構（AMED）の皆様にも参加頂きました。ベトナムにおいて一堂に会し、顔を合わせてという形で実施できなかったのは残念でしたが、逆に日本側からも広い関係者の方に参加頂いたことは、オンラインで実施したことのメリットになりました。



NCGM や JICA 本部、AMED の方はオンラインで参加。来年はベトナムに来て実施できると良いですね。

進捗を発表する NHTD・Giang 医師、Covid-19 患者への治療にあたりつつ、HIV 治療にも力を注いでいます。

NHTD のプロジェクトコーディネーターから活動報告を頂き、プロジェクトの進捗が共有された後、参加者からプロジェクトの成果や課題に様々な助言を頂きました。一年を振り返りますと、やはり新型コロナウイルスにより日越双方の往来ができなかったこと、NHTD 自身がコロナ対策に奔走せざるを得なかったことにより、多少の案件進捗の遅れは見られました。ですが、その中でも HIV ウイルスのモニタリング体制はハノイ市、クアンニン省の病院の参加を得て構築されつつあり、2021 年からは更に 6 つの地方省の参加を得て、更に広い地域の HIV ウイルス量、薬剤耐性ウイルスの現状を把握できるようにしていく予定です。これから活動拡大の方向性については、参加関係者の合意を得られました。



HIV ウイルス検査に、そして新型コロナウイルスにも役立つ全自動 PCR 検査システムが寄贈されました。



会議を終えて皆で記念写真。コロナ禍を乗り越えて、プロジェクトを推進していきましょう！

そして会議に続いて、今回新型コロナウイルス対策への日本からの支援として、NHTD に全自動 PCR 検査システムが寄贈されました。検査にかかる検体の前処理などのプロセスがほぼ自動化されることにより、より効率良い検査業務に貢献し、NHTD 検査技師の負担を削減することにも繋がります。プロジェクト活動である HIV ウイルスのウイルス量検査にも役立てつつ、ベトナムにおける検査能力向上につながることを期待されます。(現地 [ベトナムメディア](#) でも報道頂きました。)

コロナに負けず、ベトナムが掲げる 2030 年までの HIV/AIDS 撲滅を目指して、プロジェクトは新しい年に向けてさらに活動を加速させていきます。